

淡路島内の永田青嵐の句碑・歌碑



① 鬼儡師
波の淡路の
訛かな
場所：洲本市海岸通
淡路文化史料館前



② すずしさや
僧に従ふ
朝の階
場所：洲本市上内膳
先山千光寺
山門下展望台



③ 春雨や
波の淡路の
五色浜
場所：洲本市五色町鳥飼浦
県道31号線沿い



④ なつかしき
水の細さよ
猫柳
場所：南あわじ市田田
南あわじ市役所
旧緑庁舎前



⑤ 茄子汁
佛をおそれ
住みにけり
場所：南あわじ市倭文長田
永田青嵐生家



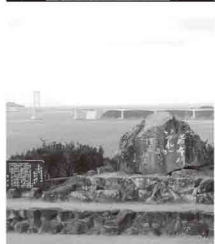
⑥ 震災忌
吾に古りゆく
月日かな
場所：南あわじ市倭文長田
観音寺墓地



⑦ 海晴れて
松風清き丘の上に
正しき者の
墓と呼ばれむ
場所：南あわじ市倭文長田
観音寺墓地



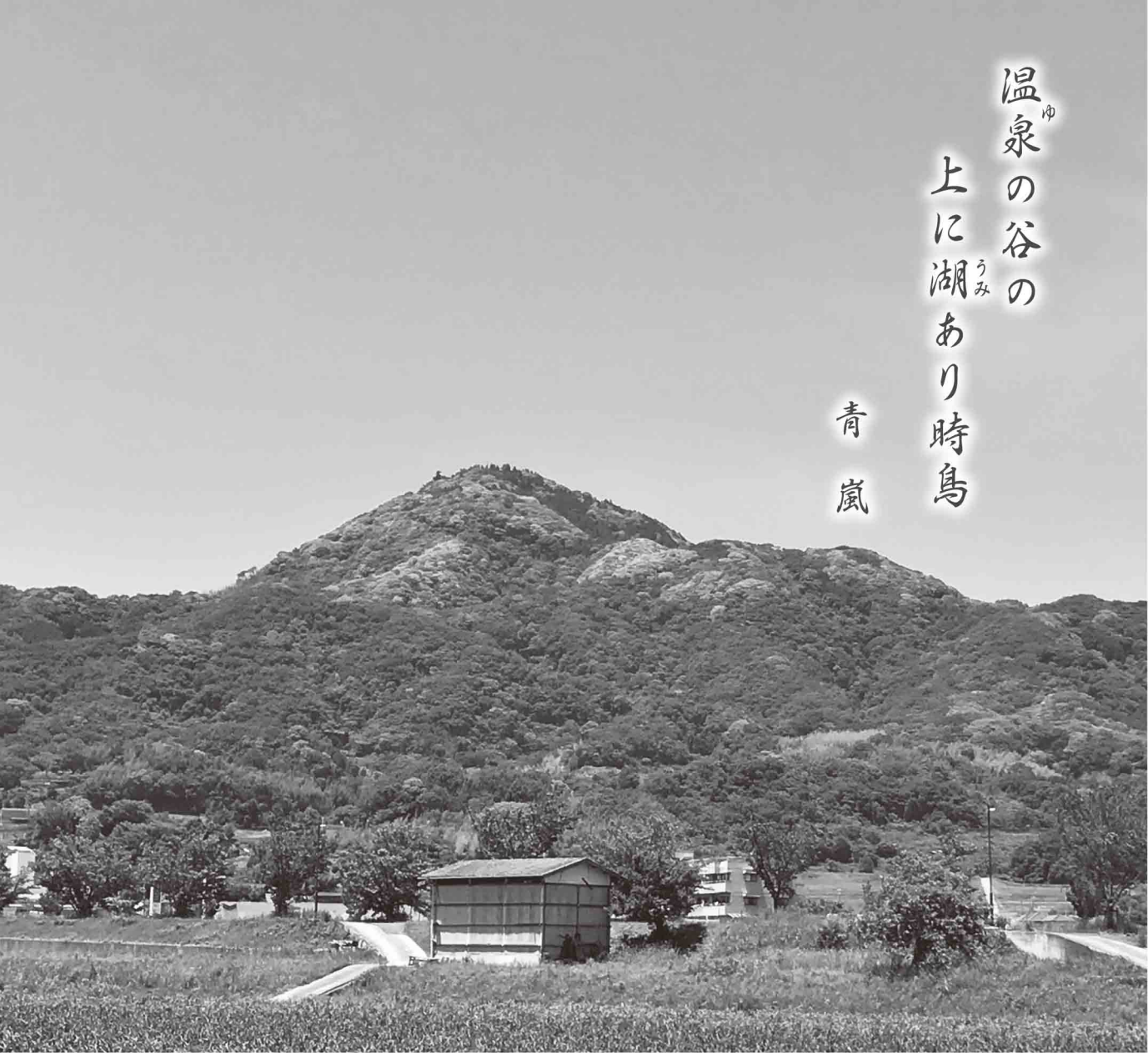
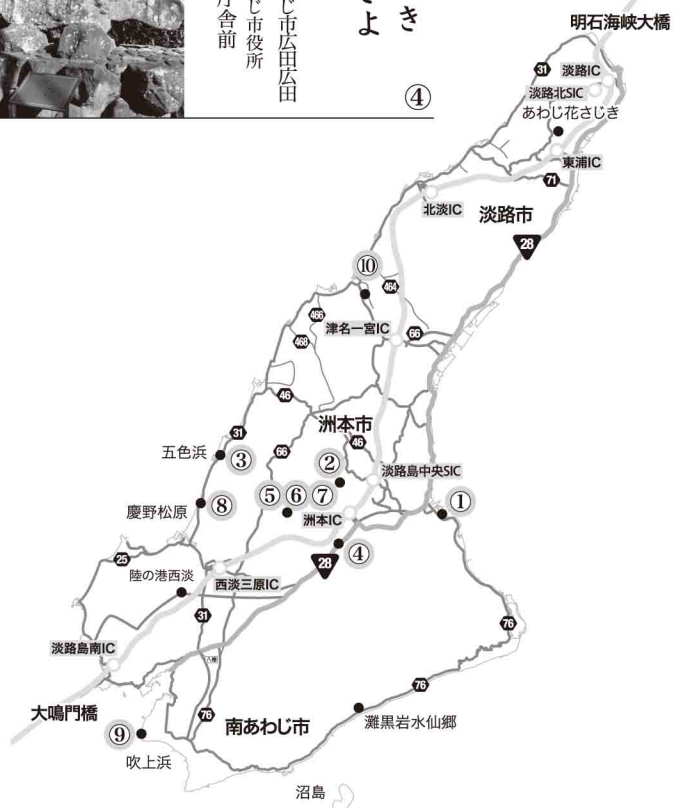
⑧ 波消えて
力なくとぶ
千鳥かな
場所：南あわじ市松原慶野松原
国民宿舎
慶野松原荘前



⑨ 若布川
いづれが近き
撫養福良
場所：南あわじ市阿万吹上
ホテルニューアワジ
プラザ淡路島前



⑩ 靱蒔いて
天地に事
なかりけり
場所：淡路市多賀
伊弉諾神宮外苑



洲本市桑間から望む先山

温泉の谷の
上に湖あり時鳥
青嵐

第十三回 永田青嵐顕彰 全国俳句大会 入選句集



◎募集期間
令和3年6月～9月

発行日：令和4年2月
発行：一般財団法人淡路島くうみ協会
〒656-0022 兵庫県洲本市海岸通1-11-1
TEL:0799-24-2001 FAX:0799-25-2521
<https://www.kuniumi.or.jp/>

開催趣旨

永田青嵐顕彰全国俳句大会は、淡路島が生んだ偉人永田青嵐（本名：永田秀次郎）の功績を全国に発信し、俳句文化を通じたふるさと意識の高揚や、交流人口の増加による淡路島の活性化を図ることを目的として、平成二十二年度から実施しており、今回で十三回目になります。

また、大会では、「一般の部」に加え、「学生（小・中・高校生）の部」を設け、淡路島内の学校のみならず島外の学校からも投句を募集し、全国の子供達に永田青嵐を広く周知するとともに、俳句を通じて日本の風土や文化に触れる機会とし、心豊かな人づくりを目指しています。

そのほか、俳句の裾野を広げるため、初心者のための「俳句入門講座」や、島内の小・中・高等学校を対象に「俳句出前講座」、淡路島の観光地等を巡って俳句を詠む淡路島吟行バスツアーも実施しております。

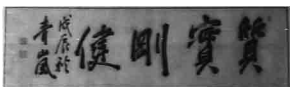
永田青嵐

ながた せいらん

一八七六一一九四三

兵庫県三原郡（現南あわじ市）生まれ。本名、秀次郎。一八九九年第三高等学校（現京都大学）法学部卒。旧兵庫県立洲本中学校長、三重県知事、貴族院議員、拓務大臣、拓殖大学長などを歴任。東京市長を二度務め、一九二三年の関東大震災からの復興、一九四〇年に開催予定だった幻の東京オリピックの招致に尽力。

俳句は、三高在学中に寒川鼠骨の手ほどきを受け、後に高浜虚子に心酔。句は特別枠で随時俳誌「ホトトギス」に掲載された。代表句として「凧に追はるゝ如く任地去る」がある（永田青嵐句集、新樹社）。「震災忌吾に古りゆく月日かな」は辞世句。また、「交わりは薄くも濃くも月と雲」は、虚子の追悼句。他に「青嵐随筆集」（実業之日本社）等がある。



青嵐作（兵庫県立姫路西高校所蔵）
1895年旧制姫路中学校（現兵庫県立姫路西高校）を卒業した秀次郎の昭和3（1928）年の作。この「實剛健」は3つある同校の校訓のひとつとして今でも校長室に堂々たる存在感を持って掲げられています。

目次

開催趣旨、永田青嵐紹介	1
第十三回大会に寄せて	3
・石村健大会会長挨拶	3
・永田秀一大会名誉会長挨拶	3
・稲畑汀子代表選者挨拶・賛同句	4
・島内選者賛同句	5
稲畑汀子代表選	
・入賞作（一般の部）	6
・入賞作（学生の部）	7
・佳作（一般の部）	8
・佳作（学生の部）	9
島内選者選	
・入選作（一般の部）	10
・入選作（学生の部）	12
・準入選作（一般の部）	15
・準入選作（学生の部）	16
安原葉氏講演要旨・賛同句	17
俳句入門講座・出前講座	20
淡路島吟行バスツアー	21
後記	22
大会運営委員会委員	22
淡路島内の永田青嵐句碑・歌碑	

第十三回大会に寄せて

第十三回永田青嵐顕彰全国俳句大会会長
一般財団法人淡路島くうみ協会理事長 石村 健



この俳句大会は、淡路島が生んだ偉人『永田青嵐』の功績を広く全国に知っていただくとともに、俳句文化を通じてふるさとへの思いを高めていただくため、平成二十一年度から開催しており、本年度で第十三回を迎えました。昨年度は、コロナウイルス感染拡大防止のため、残念ながら表彰式は中止となりましたが、数多くの素晴らしい作品をお寄せいただきました。今年もコロナ禍の終息は依然として見られず、やむなく表彰式は中止とさせていただきますが、四十七都道府県及び台湾から、四千七百七十八人、八千一句もの投句をいただき、こうして入選句集を皆様にお届けすることが出来ましたことを嬉しく思います。大会創設以来投句をいただいている全国の皆様や学校関係者の皆様、そして大会運営にご尽力いただいた先生方に対しまして、大会関係者を代表して心より感謝申し上げます。

今後、永田青嵐のふるさとである淡路島から、幅広い年齢層の方々から愛され、学ぶほどに奥深く日本を代表する文化である俳句の素晴らしさについて、島の魅力とともに、島内外へ発信し続ける所存ですので、引き続きご支援・ご協力賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本大会開催にご尽力いただきましたホトトギス名誉主宰の稲畑汀子先生、島内選者の方々をはじめ関係各位に心より御礼申し上げます。

第十三回永田青嵐顕彰全国俳句大会 代表選者

ホトトギス名誉主宰 稲畑 汀子



今年も「永田青嵐顕彰全国俳句大会」の選者をさせて頂き誠にありがとうございます。今回の投句数は八〇〇一句という事で、今までで一番多い句数ということになります。特に「学生の部」の投句が多く、俳句会の前途洋々の姿が見て取れます。一般の部も含め、一人でも多くの大作家が育って行くことを願って止みません。

家族とは変らぬ流れ去年今年

宇宙にも心遊ばせ去年今年

静けさにあり年迎ふ家族かな

第十三回永田青嵐顕彰全国俳句大会名誉会長

兵庫県議会議員 永田 秀一



永田青嵐顕彰全国俳句大会も皆様方のご支援、ご指導により第十二回目を迎えることが出来ました。全国各地から投句をいただき、心より御礼申し上げます。祖父永田秀次郎は、淡路島で生まれ、政界、俳界、教育界等多方面で活躍しましたが、特に俳界では、高浜虚子の指導を受け、「青嵐」の俳号で親しまれ、人情味豊かな俳句を多数残しています。淡路島を詠んだ句も多く、島内各地に句碑があります。その句碑を見る度に祖父の故郷を想う心が、句として後世に残っていくことの素晴らしさを感じております。また、生家近くの小高い丘に墓があり、次の歌碑が建っています。

海晴れて松風清き丘の上に

正しき者の墓と呼ばれむ

とあり、自分は一生正しいことをしてきた人だったと言ってもらえるような人生を全うしたいと念願し、詠んだものです。本大会開催にご尽力いただきました関係各位に心より御礼申し上げます。

【経歴】

一九三二年、神奈川県横浜市生まれ。
父高浜年尾、母喜美の次女。小学生の頃から、祖父高浜虚子・父高浜年尾に俳句を学んだ。一九三五年、鎌倉から芦屋に転居。一九五六年、二四歳で稲畑順三と結婚。二男一女の母となる。
一九六五年、「ホトトギス」同人。一九七六年、第一句集『汀子句集』刊行。一九七七年、「ホトトギス」雑誌選者に。一九七九年、父高浜年尾の死去により主宰を継承した。
一九八二年より朝日俳壇選者に、一九九四年～一九九六年、NHK俳壇の講師・選者となる。
一九八七年、日本伝統俳句協会を設立し、会長に就任。二〇〇〇年、虚子記念文学館を芦屋に開館、理事長に就任。二〇二三年、「ホトトギス」名誉主宰となる。



淡路文化史料館前に青嵐句碑と並ぶ稲畑汀子句碑

淡路島内での稲畑先生の句碑は、淡路文化史料館前（洲本市海岸通）、高田屋嘉兵衛公園（洲本市五色町）、国清禅寺（南あわじ市松帆）に建立されている。

海見えて風花光るものとなる

《島内選者賛同句》

やり直す人生三度絵双六

高田 菲路

洲本市在住
「ホトトギス」同人
「九年母」推薦作家



家継ぎし長子に重き盆提灯

正井 良徳

南あわじ市在住
「淡路風土俳句会」代表



入賞作【一般の部】稲畑汀子選

《永田青嵐大賞》

秋高し橋を引きあふ島と島 兵庫県 詫 和子

《兵庫県知事賞》

一枚の皿を洗ひてより夜長 大阪府 上西左大信

《稲畑汀子賞》

一山を越えて一水青田風 神奈川県 樋口 孝雄

《拓殖大学長賞》

海の色にも秋天のありにけり 兵庫県 清瀬 環

《洲本市長賞》

島影を傾かせたる今日の月 兵庫県 好田 逸美

昭和恋ふ心に二と日風生忌

三根 香南

洲本市在住
「淡路若葉会」代表



濡れ縁の古妻小さし貝母咲く

稲山 忠利

南あわじ市在住
「南淡七曜俳句会」代表



光るもの八手の花の蜜と知る

木下 圭子

洲本市在住
「ホトトギス」同人



《南あわじ市長賞》

ラムネ飲む昭和の音を転がせて 兵庫県 三原 米果

《淡路市長賞》

月涼し最終便の水脈照らす 大阪府 今井 文雄

《兵庫県淡路県民局長賞》

風鈴の短冊を変へ風を変へ 岐阜県 藤野 幸子

《淡路島観光協会長賞》

大夕立丸ごと島を洗ひ上ぐ 兵庫県 齊木 富子

《淡路島くうみ協会理事長賞》

変はりゆく世の片隅に大根蒔く 兵庫県 黒田千賀子

入賞作【学生の部】稲畑汀子選

《永田青嵐大賞》

公園の闇うごきだす虫時雨 兵庫県 山岡 和生

〔蒼開中学校〕

《拓殖大学長賞》

流れ星願いをのせて空かける 東京都 関澤那々未

〔江戸川区立南篠崎小学校〕

《金賞》

花火見る特等席は父の肩 大阪府 二口 美優

〔大阪桐蔭高校〕

《銀賞》

夕立が過ぎまた色は生まれけり 兵庫県 上野 旭陽

〔三原中学校〕

《銀賞》

扇風機何を言っても首をふる 岐阜県 栗田 真帆

〔大垣市立墨俣小学校〕

佳作【一般の部】稲畑汀子選

菜の花や島時間なり渡し舟 福島県 斎藤 正道

菖蒲苑吉野大夫も楊貴妃も 愛知県 岩田 遊泉

稲刈りて風入れ替る千枚田 埼玉県 坂本 恭子

受話器置く向かうもひとり星月夜 大阪府 山戸 暁子

渦潮の飛沫を受けて船涼し 愛知県 大洞まさ女

段畑は島の宿命甘藷植う 香川県 山下倭文子

入相の雲はくれなる鳥渡る 福岡県 鹿子生憲二

凧は青嵐の声島の声 東京都 曾根新五郎

耀声のどこか麗か島の昼 大阪府 須知カヨコ

一家族同じ匂や干菜風呂 神奈川県 塚本 治彦

《銅賞》

雪がとけ楽しみ一つなくなった 富山県 中村 柚希

〔高岡市立伏木小学校〕

《銅賞》

山笑う新たな命宿しけり 広島県 文山 聖音

〔広島市立観音中学校〕

《銅賞》

鳴く虫や静寂の夜ひき立てて 兵庫県 中西 捺心

〔淡路高校〕

《銅賞》

桜咲く別れと出会いこうさする 兵庫県 坂口羅偉瑠

〔淡路高校〕

《銅賞》

声援がバトンをつなぐ運動会 兵庫県 魚崎 菜生

〔蒼開高校〕

きちきちと空を鳴らしてばつた来る 岡山県 伴 明子

国生みの島の灯ゆたか月今宵 兵庫県 松井ゆう子

流れ星落ちて漁火ひとつ増す 兵庫県 伊藤 秀子

青嵐を偲べば虚子の秋の声 新潟県 内藤 孝

警邏終へ月に濡れたる足を拭く 愛媛県 浜田 邦雄

水打つて雲間の光広がりぬ 東京都 山月 恍

月渡る神話の島の海越えて 兵庫県 本郷 桂子

航涼し星さんざめく日本海 石川県 金谷 優子

船客の一興として大夕立 神奈川県 久保田 聡

気負はずに生きてゆきたし蟬しぐれ 兵庫県 大歳 晴美

佳作【学生の部】稲畑汀子選

猛暑日を窓から眺め過ぎる日々 兵庫県 登日ひな乃 〔洲本高校〕
 満月や友と笑えば満ち足りる 兵庫県 登 夕華 〔洲本高校〕
 水溜まり青空映しせみが鳴く 兵庫県 北島 颯大 〔洲本高校〕
 強き風吹き終わるとき山眠る 兵庫県 山本 聡 〔洲本高校〕
 母親の手を取り向かう墓参 兵庫県 長尾日菜乃 〔洲本高校〕
 夕焼の空を眺めて帰りけり 兵庫県 武田 快斗 〔三原中学校〕
 見上げると毎日違う夏の空 広島県 三島 柚葵 〔福山市立松永中学校〕
 陽炎の先へ先へと歩を進め 広島県 兼田あかり 〔福山市立松永中学校〕
 赤とんぼ広い野原にいきいきと 広島県 山本 愛奈 〔福山市立城北中学校〕
 浮輪持ち父と通った松林 山口県 繁澤 優希 〔山口県立高森みどり中学校〕

入選作【一般の部】高田菲路選

《優秀句》
 老幹の命つなぎて梅一輪 兵庫県 春名あけみ
《優秀句》
 子育てを終へて奔放夏つばめ 栃木県 平野 暢行
 無花果の熟れて俯きかげんかな 茨城県 蓮見 和子
 鶴の子の漁を習ふ青田中 兵庫県 脇野 信子
 鬼ヤンマ逃がして授業再開す 徳島県 坂東 典子
 宿題の写生仕上げて夏終る 兵庫県 猪谷 信子
 密やかに花芽伸ばして茗荷の子 愛知県 川崎美智子
 底紅の内なる炎畳む刻 山梨県 渡辺伊勢乃
 応援団にも金昨夜のひつまぶし 兵庫県 細川まさみ
 眼底に法灯点る滝行者 埼玉県 関 とし江

星空が隠れるほどの月明かり 東京都 山本 早恵 〔文京区立茗台中学校〕
 しゃぼん玉青空高くとんでった 兵庫県 水口 和来 〔辰美小学校〕
 たまねぎはどの県よりもおいしいよ 兵庫県 西 海音 〔松帆小学校〕
 せがのびたたくさんたべたなつやすみ 岐阜県 松本 瑠偉 〔大垣市立墨俣小学校〕
 風にのりどこまで飛ぶのしゃぼん玉 埼玉県 中西龍之介 〔本庄市立藤田小学校〕
 ありたちが地面の中で仕事 埼玉県 中塚 晴賀 〔本庄市立藤田小学校〕
 まどあけてながはいるかがはいる 東京都 小林 勇誠 〔多摩市立多摩第一小学校〕
 満開のさくら見上げて登下校 兵庫県 高須 陽葵 〔志筑小学校〕
 カレンダーぺらぺらめくる秋の風 兵庫県 瀬川 凌斗 〔志筑小学校〕
 手の先はてんとう虫の発射台 山口県 秋本 達実 〔山口県立高森みどり中学校〕

入選作【一般の部】正井良徳選

《優秀句》
 握ってはひらく稲穂の出来具合 兵庫県 石田 信夫
《優秀句》
 盆来る笑むは正座の考と妣 兵庫県 堀毛美代子
 冬青空叩けばパリンと割れさうな 東京都 綾野まさる
 炎天の車列を刻む信号機 福岡県 永野 琢
 密やかに花芽伸ばして茗荷の子 愛知県 川崎美智子
 旭光を浴びて色とす若桜 東京都 木幡 忠文
 朝まだき夢を復習ふや冬の床 徳島県 天王谷 一
 駅舎にて手をふる孫や夏終る 兵庫県 山本あけ美
 髪洗ふ仕切り直しの明日へと 愛知県 山口 純子
 都忘れ嫁ぎて馴染む土地訛り 大分県 小野 道山

入選作【一般の部】三根香南選

《優秀句》

母を継ぐ瓜実顔や藍ゆかた 熊本県 貝田ひでを

《優秀句》

戸籍得て飛ぶこふのとり天高し 兵庫県 坂口 榮

ふだん着で淨瑠璃館や燕来る 神奈川県 今村 千年

台風の進路を辿る点字地図 兵庫県 津村 隆

渾身の光となりて秋の蝶 福岡県 森永 清子

稲刈りて風入れ替る千枚田 埼玉県 坂本 恭子

廃校に咲く朝顔のこぼれ種 兵庫県 涌羅 由美

蚕町の祭太鼓は海へ打つ 大阪府 杉山千恵子

片向きしままに懸かりし秋簾 兵庫県 藤本 正子

野分晴筆圧強き子の手紙 埼玉県 内野 義悠

入選作【一般の部】木下圭子選

《優秀句》

山海を繋ぐかいぼり田水沸く 兵庫県 津田 千種

《優秀句》

傾城のかしら狂ほし春の潮 大阪府 石浜 西夏

魁けて菜の花の黄に染まる鳥 兵庫県 仲井 慶次

稲刈りて風入れ替る千枚田 埼玉県 坂本 恭子

向日葵や海は干満くりかえし 埼玉県 増田 信雄

驟声のどこか麗か島の昼 大阪府 須知カヨコ

青嵐忌川音とどく十三夜 兵庫県 平川紅仁子

新調の白いシューズの卒寿かな 兵庫県 岩田美代子

青山に無垢なる白き山法師 福岡県 門谷 とも

菜の花や島時間なり渡し舟 福島県 斎藤 正道

入選作【一般の部】稲山忠利選

《優秀句》

とんとんと紙の力士の小春かな 滋賀県 松本ちずる

《優秀句》

一つづつ日輪を抱く草の露 兵庫県 六鹿 照海

麦を踏む母の隣の畝を踏む 群馬県 千島 宏明

色鳥や五斗長垣内の鉄炉跡 京都府 江川 隆子

本棚の本を束ねる秋思かな 富山県 満保 千里

桴挙げて秋天指せる宮太鼓 兵庫県 上岡あきら

断たれたるままの古道や穴惑 静岡県 窪田かづ江

虎が雨待合室の無音かな 愛知県 高間登美子

松手入して青空をひろげけり 兵庫県 水間千鶴子

湯豆腐の似合ふ夫となりにける 愛媛県 松田 夜市

入選作【学生の部】高田菲路選

《優秀句》

黒南風や肩幅ほどの狭き路地 愛知県 山之内崇伸

《優秀句》

カーテンのすき間にみえる鯛雲 東京都 上村 梨緒

秋風がチェロの音色を伝えてる 東京都 小池陽菜乃

祖母の家たたみの香る夏の朝 広島県 田内 咲羽

雪解けや朝陽溢れる露天風呂 大阪府 二口 美優

せんぷうき何を言ってもそっぽむく 東京都 川口まりな

うつむいたひまわりの中帰りけり 岐阜県 國枝 わこ

山道や心やすらぐ岩清水 山口県 熊谷 慧

ひらひらと金魚が夏をつれてきた 兵庫県 清水 奏妃

きらきらと降ってきそうな天の川 兵庫県 土居 桜子

入選作【学生の部】正井良徳選

《優秀句》

絵日記の青鉛筆減る夏休み 静岡県 渡邊 仁翔

《優秀句》

星くずの終焉のごと蛸舞う 静岡県 望月 悠世

「次」のない夏の戦い「今」ここに 佐賀県 浦郷 渉

黒南風や肩幅ほどの狭き路地 愛知県 山之内崇伸

列外れ我が手を迷う蟻一つ 兵庫県 亀井 柚衣

じいちゃんの畑に特大夏野菜 富山県 頭川 知弥

書き初めの筆がふるえる一画目 富山県 大野 一心

手の先はてんとう虫の発射台 山口県 秋本 達実

放課後の廊下に少年夏の雲 静岡県 清水 美海

水溜り虹飛び越えて空を見る 静岡県 佐藤 結奈

入選作【学生の部】稲山忠利選

《優秀句》

水面の静かにありぬ金魚鉢 山口県 城野 音羽

《優秀句》

あさがおがおはようの声きこえるよ 富山県 尾崎 悠美

桃の字を名前にもらいひな祭り 岐阜県 中川 桃音

緑蔭にすわって一人目をつむる 山口県 中井 愛海

水たまり水馬浮かぶ空うつる 兵庫県 周藤 蓮

竜舌蘭青のキャンバス突き抜ける 愛知県 近藤 誠

黄金に光ってみえる栗ご飯 東京都 増澤 萌寧

夕焼けがちよつとすっぱい檸檬色 静岡県 小田巻佑菜

運動会心臓ぼくより前走る 東京都 福井 瑛人

ひまわりは今日もおしゃべりお日さまと 広島県 橘 玲也

入選作【学生の部】三根香南選

《優秀句》

公園の闇うごきだす虫時雨 兵庫県 山岡 和生

《優秀句》

せみの声古代感じるゆずるは山 兵庫県 松浦 稜華

先生の声をさえぎるせみの声 兵庫県 中来田亜沙

ばあちゃんの米じゅって何けいろうの日 富山県 高崎 颯佑

春の虹未来の自分へ掛ける橋 山口県 普喜 美桜

どじょうさんいつまでもこのちきゅうにいてね 東京都 新井 かん

たいようとむぎわらぼうしけんかして 岐阜県 北島奈柚花

涙背負い勝つと誓った最後の夏 兵庫県 秦 ゆめ

うちゅうから流星ぐんのおとしもの 東京都 佐藤希乃花

にあつてるすてきなぼうしどんぐりさん 東京都 吉澤つむぎ

入選作【学生の部】木下圭子選

《優秀句》

母と待つ手足冷たき初日の出 兵庫県 後藤 めい

《優秀句》

春がきた新しい子がはいつてくる 大阪府 中山 諒治

たくさんの命が鳴いてる蟬時雨 東京都 伊藤優里奈

いつもより多目によそう栗ご飯 東京都 千田 虎二

満開の桜と共に 第一步 兵庫県 村上 桜空

あさがおのはっぱがかれるさみしいな 埼玉県 嶋田 柚花

夏野菜お日様の味しみこんで 岐阜県 酒井 理緒

おとうとがころんでないてるゆきの山 富山県 奈部 幸成

夏の山父の背中がたのもしい 東京都 佐々木叶太

なわとびのほっぺに春の風がふく 富山県 川原優梨花

準入选作

〔各島内選者の入選作の次点として選句された作品を〕
「準入选作」として紹介しています

【一般の部】

《高田菲路選》

灯を消せば膨らんでゆく虫時雨 兵庫県 小柴 智子
児の俳句吊りし風鈴よく鳴りぬ 兵庫県 上原 康子
朝日さし蜘蛛の巣ひかる雨あがり 兵庫県 藤原 龍宮
廃屋を覆ひて鳶の冬紅葉 東京都 片桐 啓之
天高し「照強」との勝ち名乗り 福井県 倉谷 重瑠

《正井良徳選》

夏草や淡路の軌道いまむかし 兵庫県 西岡美知子
待ち合はす君へくると秋日傘 兵庫県 前田 容宏
鬼ヤンマ逃がして授業再開す 徳島県 坂東 典子
一枚の鱭となりゆき海女消ゆる 奈良県 柏木 博
あるとしもなき風野水仙香る 兵庫県 田中 由子

《三根香南選》

祭値は承知沼島の鰹を買ふ 京都府 藤堂くにを
影列ね月の棚田の藁ぼつち 兵庫県 片山 紀子

【学生の部】

《高田菲路選》

暑いしか言えない部活終わったら 徳島県 阿地しずく
夜桜やイルミネーション待ちにけり 兵庫県 楠目 栞奈
つばめの子飛び立つ後に静かな巢 兵庫県 谷 和奏
扇風機ずっと私を見続けて 山口県 高尾 優舞
色どりの食卓囲む夏野菜 山口県 中植 瑠菜

《正井良徳選》

春風を受けて心の晴れてゆく 山口県 松岡 虹登
どんぐりがぼうしをかぶって落ちている 東京都 栗林 愛梨
物置きに取り残された扇風機 静岡県 小関 優太
淡路島新タマとても甘いんだ 兵庫県 興津 碧人
石の道歩けば鳴子夏の下駄 静岡県 細川 康生

《三根香南選》

ゆつくりと鯉ゆつくりと秋の川 兵庫県 武田 奈々
秋風がチェロの音色を伝えている 東京都 小池陽菜乃

天国にゐる筈の子の墓洗ふ 兵庫県 ほりもとちか
故里の母とつながる天の川 大阪府 古田 小春
読み返す兵士の一句終戦日 石川県 中島 外岐

《稲山忠利選》

露けしや世阿弥遠流の物語 山梨県 渡辺伊勢乃
花植えて夫婦の会話蜜となる 愛媛県 宇都宮千瑞子
おとがいに結ぶ赤紐風の盆 東京都 羽住 玄冬
爽やかや島の藻塩で握り飯 東京都 石倉 明子
大夕立丸ごと島を洗ひ上ぐ 兵庫県 齊木 富子

《木下圭子選》

人声もなく棚田の田植笠 岡山県 船谷 耕山
田植機に乗り初む妻よ八十路来し 兵庫県 田村 偉彦
島に生れ島に住み古り零余子飯 兵庫県 山岡仁美子
故郷の島や蜜柑の色づきぬ 滋賀県 林 満喜
廃校に咲く朝顔のこぼれ種 兵庫県 涌羅 由美

思い出と帽子を運ぶ夏の風 東京都 石江 桜子
ひまわりが見ている先は青いそら 兵庫県 岡田 優花
名勝負生まれる夏の甲子園 兵庫県 魚崎 脩生

《稲山忠利選》

霜柱踏めばバス停ただ一人 東京都 小野 唯果
夕日にねブランコいできるときそう 兵庫県 倉本 拓弥
きた風がリングのほっぺプレゼント 埼玉県 中塚 彩賀
坂道の金木屋に立ち止まる 広島県 山根 舞香
絵日記の青鉛筆減る夏休み 静岡県 渡邊 仁翔

《木下圭子選》

秋刀魚焼く遠くできこえる船の音 兵庫県 堀 琉玖
花火見る特等席は父の肩 大阪府 二口 美優
春風を受けて心の晴れてゆく 山口県 松岡 虹登
つばめの子飛び立つ後に静かな巢 兵庫県 谷 和奏
弟が走るさきにはせみの声 富山県 山口 翠海

永田青嵐とその俳句

令和4年2月27日開催予定の特別講演会(講師・安原葉氏)は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しました。このため、講演内容の要旨をいただきましたので掲載します。

安原 葉

私は、二〇二五年二月二十七日、第六回永田青嵐顕彰全国俳句大会記念講演会で「永田青嵐とその生涯」の題のもとで講演を行っていますので、今回もその時の講演と重複する部分も多いかと思いますが、まずもってお許し願います。また、本名秀次郎を俳号の青嵐で統一して呼ばせていただきます。さらに経歴はこれまでに度々紹介されていますので省略させていただきます。

さて、昨年の東京オリンピック大会に続いて、今冬は北京オリンピック大会が開催され、世界中がオリンピックで盛り上がりましたが、特に昨年の東京オリンピック大会に関連してアジア、日本で初めてオリンピック大会開催が企画、決定までこぎつけた歴史が過去にあったことに

おいて、欧米各国のオリンピック委員にそのメッセージを託し、第十二回オリンピックを東京で開催することの各国委員の動向調査を依頼したことに始まる青嵐の東京オリンピック招致運動は、建議や幾多の複雑な手続き、運動を通して、一九三六年七月三十一日、ベルリンのホテル・アドロン鏡の間におけるオリンピック委員会との総会の席上、東京がヘルシンキを抑えて第十二回オリンピック開催地に決定しました。オリンピック大会が初めてアジアで開催されるという快挙でした。しかし、その後間もなく、日中戦争が始まって軍事に関する物資統制が厳しくなり、日・独・伊の三国同盟が世界を相手に大戦を挑むことになってしまったのであります。

青嵐は、この事を生涯語ろうとはしなかったと言われます。青嵐は、第十二回オリンピック東京大会の招致に情熱を傾けたわが国最初の人であることは、紛れも無い事実であります。この事をもっと強調したいと思います。

次に青嵐が詠んだ俳句について記します。超多忙の人

については全く触れられておらず、誠に残念でした。それについて永田青嵐の名が、いつか出て来ることを期待していましたが残念でした。

一九三三年三月に、かの喜劇俳優チャップリンが日本に来ていますが、日本で一番先に会いたい人は誰かと問われると即座に永田青嵐の名をあげたと言います。官選の東京市長を二度も勤められた青嵐の名は世界中に知れ渡っていたのでしよう。その二度目の東京市長就任前後のころから、他の体育関係の方々と一緒に、日本にオリンピックを招致するという猛運動を展開しています。一九四〇年に日本は、神武天皇即位二六〇〇年を祝福する国家的祝典の一環として東京市に第十二回オリンピック大会を招致しようという画期的な計画を立て、一九二九年、ドイツのダルムシュタットの国際学生陸上競技選手権大会に出場の日本学生選手団長である早稲田大学教授山本忠興氏に、〈東京市長永田秀次郎〉の名に

生の中で青嵐は、数多くの句を詠みました。中でも東京市長就任後間もなく起きた関東大震災の最中にあっても数多くの句を詠んでいます。

市役所の庭に産れぬ露の秋

梨囀り乍ら生死の巷行く

秋雨のテントの中の松の幹

バラックの思はぬ方に月恋し

バラックに二幅かけぬ月の秋

秋の風互に人を怖れけり

露三日妻子に遇ひぬ増上寺

帰省子に葉隠れ枇杷の残りけり

西瓜切つて唐紅や右左

秋風や裏戸ばかりを開けて住む

有難く今日も暮して秋彼岸

飛ぶが如く野分に追はれ戻りけり

苗代に遠き我家の映りけり

自動車に遠くなりけり花の山
 仏法僧三たび高野に詣でけり
 接木する僧に尻目や詣でけり
 妻を見る母の如しや老の冬
 震災忌我に古りゆく月日哉

青嵐の「俳句的人生観」という一文には、「私は俳句に親しんだ結果、今までに考へ付かなかつた新しい世界を見出した。」と俳句の効用を説き、結びに「マルクスの議論などは三文の価値も無い。階級闘争とか、無産者独裁とか言ふのは、偏狭なる反動思想である。人生は飽迄も階級緩和であり、共存共栄であらねばならぬ。私の議論から言へば、哲学者も社会主義者も俳句を稽古せねば駄目である。」と述べています。俳句にも生涯をかけていた青嵐の信念がうかがわれます。

《安原葉賛同句》

春風や連れ立ちのぼる丘の径
 春風のはや吹くころか丘の墓所
 又の日に訪はんかの丘春の風

やすはら よう
安原 葉

新潟県出身。1999年「ホトトギス」同人会代表、1979年「俳誌「松の花」主宰を継承。元NHK俳句講師。そのほか日本伝統俳句協会顧問、虚子記念文学館常務理事、国際俳句交流協会会員などを務める。
 《主な著書》句集「雪解風」、「月の門」、「生死海」など。



俳句入門講座（令和3年度）

本講座は、俳句初心者に俳句の楽しみを広めるため、俳句の基礎知識（定型、季語、季語、切れ、かなづかい等）や俳句の歴史、俳句の作り方などを楽しんでいただくことを目的に3回連続講座として実施しました。

- 第一回 開催日 令和3年7月1日(木)
 内容 講義「俳句のための基礎知識」
 講師 水田むつみ氏（「田鶴」主宰）
 受講者数 38名
 - 第二回 開催日 令和3年7月8日(木)
 内容 講義「俳句のリズムと構造」
 講師 正井良徳氏
 受講者数 29名
 - 第三回 開催日 令和3年7月22日(木・祝)
 内容 句会体験「さあ俳句を作ってみよう」
 講師 正井良徳氏、三根香南氏、稲山忠利氏、木下圭子氏
 受講者数 34名
- ※いずれも洲本市文化体育館



〈第1回入門講座（講義）〉



〈第3回入門講座（句会体験）〉

俳句出前講座（令和3年度）

本講座は、島内選者が講師となり、講座を希望する島内の高等学校・中学校・小学校に出向き、俳句の基礎や作り方の授業を通じて、子供達に俳句への理解を深めていただくことを目的に開催しており、今年度は三校で実施しました。（講師 正井良徳氏、稲山忠利氏）

- (1) 洲本市立由良中学校 3年生(12名)
 ・実施日 令和3年7月16日(金)
- (2) 兵庫県立淡路高等学校 3年生(18名)
 ・実施日 令和3年9月9日(木)
- (3) 淡路市立志筑小学校 6年生(65名)
 ・実施日 令和3年9月24日(金)



〈洲本市立由良中学校での講座〉



〈淡路市立志筑小学校での講座〉

第13回淡路島吟行バスツアー

淡路島の観光地等を巡り俳句を詠む淡路島吟行バスツアーを実施しました。吟行後には、洲本市文化体育館で本大会の外部講師である水田むつみ先生（「田鶴」主宰）と島内選者を囲んで句会を行いました。

- ・実施日 令和3年11月23日（火・祝）
- ・行程 国清禅寺・玉青館・桜ヶ丘公園
　　↓
　　洲本市文化体育館
- ・参加者 26名



〈玉青館〉



〈国清禅寺〉



〈句会〉



〈桜ヶ丘公園〉

後記

第十三回永田青嵐顕彰全国俳句大会

運営委員会 副委員長 三根 香南

傀儡師浪の淡路の訛かな 青嵐

洲本温泉街の入り口、大浜公園前にある巨大な句碑に刻まれたこの句は、昭和二年七月号のホトトギスに掲載されたものです。望郷の念をもって詠まれた句は古びることなく、今を生きる人たちに何かを問いかけているようです。

淡路島の偉人、永田青嵐を顕彰する俳句大会も十三回を重ねて今日に至っています。昨年の表彰式・講演会はコロナ禍のために中止を余儀なくされました。

今年も年年初から変異種のオミクロン株による感染症が蔓延の兆しを見せていますが、二年ぶりに開催されることを切に願っています。八千有余の句をお寄せくださった皆様のためにも、そして言語芸術の一翼を担っている俳句の今後がますます盛んになるために、との思いからです。代表選者の稲畑汀子先生・講演会講師の安原葉先生のお声を皆様と共に聞きたいと存じます。

最後になりましたが、大会に関係する方々のご努力に感謝をさせていただきます。

令和四年二月

第十三回永田青嵐顕彰全国俳句大会

投句者及び投句数

【全体】	投句者	四千七百七十八名
	投句数	八千一句
【一般の部】	投句者	九百七十七名
	投句数	千九百二十五句
【学生の部】	投句者	三千八百一名
	投句数	六千七十六句

運営委員会委員

・大会名誉会長	永田 秀一
・大会会長	石村 健
・顧問	高田 菲路
・運営委員会委員長	角本 雅宣
・運営委員会副委員長	正井 良徳、三根 香南
・運営委員	稲山 忠利、木下 圭子
	高野 さち、栗井 光代
	塩谷 春美、片山 紀子
	福浦 泰穂、吉野 康之
	毛笠 錦哉、勝見 哲
	高田 茂和